
スコアリングイントロダクション 2022

2022 年 CDP スコアリングのご紹介



CDP スコアリングイントロダクション 2022 - バージョン管理

バージョン	公開日	変更点の概要
1.0	2022年3月11日	第一版(英語)公開
1.1	2022年6月23日	自社固有、およびケーススタディの記述に関する説明を追加(英語版 P10-12、日本語版 P11-13) 気候変動とフォレストについての A リスト要件の更新(英語版 P15、日本語版 P16) 簡易版質問書のスコアリングの明確化(英語版 P17、日本語版 18)

目次

CDP スコアリング基準の概要	5
イントロダクション	5
参照いただきたい文書	5
データの質と正確性	5
スコアリングのアプローチ	6
スコアリングの原則	6
得点の配分	6
スコアリング基準の文書の理解	8
回答ルート.....	8
セクター別質問に対するスコアリング	8
スコアリングカテゴリとウェイト	8
ポイントの配分.....	9
他の質問との照合	10
外部サイトへのリンク、添付文書、"Further Information"(任意追加情報)欄への記載、他の質問への回答の参照	10
無回答の質問.....	10
質問内容に合致していない回答	10
説明の記述	11
自社固有の説明	11
ケーススタディ.....	13
明確な根拠.....	13
無回答と回答遅延	13
情報開示レベルのスコアリング	14
認識レベルのスコアリング	14
マネジメントレベルのスコアリング	14
リーダーシップレベルのスコアリング	15
Aリスト.....	15
リーダーシップ回答のレビュー	16
1. 回答の再確認.....	16
2. 評判リスクのチェック.....	17

3. スコアリング運営委員会	17
回答の公表	17
第三者検証	17
免責事項.....	18
簡易質問書のコアリング	18
スコアリング基準に関するフィードバックとお問合せ先.....	18
付録 I - 利益相反に関するポリシー	19
回答スコアリングにおける利益相反に関するポリシー	19
スコアリング基準の作成	19
スコアリングプロセス	19
スコアに影響を与える資金提供と行為の制限.....	20

CDP スコアリング基準の概要

イントロダクション

CDP のミッションは、市場の力と協働し、企業に環境や天然資源の影響を開示して悪影響を低減するための行動を起こすことを促進することです。CDP のスコアリングはこのミッションに密接に関わっています。CDP はスコアリング基準を活用して、企業が CDP 気候変動、フォレスト、水セキュリティ、サプライチェーン質問書への回答を通して環境影響を測定し管理するための動機付けを行っています。CDP2022 質問書はセクター別のアプローチを採用しており、各質問書（気候変動、フォレスト、水セキュリティ）には、一般質問書と、影響の大きいセクター向けのセクター別質問書を設定しています。これらの質問書はそれぞれ異なるスコアリング基準が用いられます。CDP 質問書のスコアリングは、CDP によってトレーニングを受け、認定されたスコアリングパートナーによって実施されます。CDP 内部のスコアリングチームは、全てのスコアとデータの質のチェックを行い、各スコアリングパートナーと各サンプルの間でスコアリング基準が守られているか、クオリティ・アシュアランス・チェックを行っています。

2022 年の一般質問書とセクター別質問書の詳細なガイダンスは以下よりダウンロード可能です。

www.cdp.net/guidance/guidance-for-companies

スコアリング基準は、企業の環境ステewardシップに対する進捗を、CDP への回答内容から評価する手段です。この評価に基づいて最終的にスコアを算出します。セクター別のスコアリング基準では、回答企業が同業他社とのベンチマークや比較に活用できるように、セクターに特化したスコアを算出します。スコアリング基準では、回答内容の詳述の度合いや、環境問題への認識の度合い、環境問題の管理、環境ステewardシップに向けた進捗度合いを評価します。CDP は透明性を高めるために、全てのプログラム、全てのセクターのスコアリング基準をオンライン上で公開しており、ウェビナーやその他の機会にご説明を行っています。

参照いただきたい文書

CDP2022 質問書への回答を開始する前に、本書と、自社が回答するプログラムおよびセクターの CDP2022 スコアリング基準、CDP2022 回答ガイダンスの文書を一読いただくことを推奨しています。回答ガイダンスでは各質問を回答する際に回答に含めていただきたい要素を説明しており、その内容がスコアリング基準にも反映されています。回答データを比較可能なものとするためには、全ての回答企業に同様の手法で数値計算や回答の記述を行っていただく必要があります。回答ガイダンスではそれをどのようにすればよいのかを、他機関が発表している報告や評価のフレームワークにも触れながら説明しています。

データの質と正確性

CDP のスコアリングパートナーは、各企業が CDP に回答した回答内容に基づいてスコアリングを行います。CDP や CDP スコアリングパートナー、レポートライターが、企業回答に記載されている情報を検証することはありません。スコアリング基準に特別に記載がない限りは、CDP への回答以外から得られる情報を、各質問レベルのスコアリングで考慮することはありません¹。企業のウェブサイトやサステナビリティレポートなどの外部情報をスコアリングの際に考慮することはありません。回答企業は、回答内容を一般公表する、しないに関わらず、CDP 署名投資家プログラムで回答した内容は、全 CDP 署名投資家に共有されることについてご理解ください。そして、自社の現在の状況を可能な限り反映した完全で正確な情報を回答するようにお願いします。

¹ CDP 気候変動 2021 のスコアリング基準においては、科学的根拠に基づく排出削減目標 (SBT) について、SBT イニシアチブの公式な認定を受けているかどうかの検証を行います。

スコアリングのアプローチ

スコアリングの原則

CDP のスコアリングは、CDP のミッションに即して、持続可能な経済のための CDP の原則と価値に焦点を当て、持続可能な経済を達成するようなビジネスケースを強調するものです。スコアリングは、ベストプラクティスを達成するためのロードマップを企業に提供し、毎年スコアリング基準を改訂することによって、企業の行動の変化を促進して環境パフォーマンスを向上させることができます。CDP の各プログラムの一般質問向けスコアリング基準は、全ての企業、全てのセクター、全ての地域にある程度当てはまるような行動を奨励するように設計されています。セクター別のスコアリング基準は、全ての地域において、そのセクター内で活動している企業にのみ適用可能な行動を奨励します。スコアリング基準をよく理解している企業にとって、スコアは他の企業との比較のスナップショットを提供します。

得点の配分

回答企業は、環境ステewardシップに向けた進捗を示す以下の 4 つの連続したレベルに渡って評価が行われ、どの段階にあるのかが示されます。

- 1) 情報開示
- 2) 認識
- 3) マネジメント
- 4) リーダーシップ

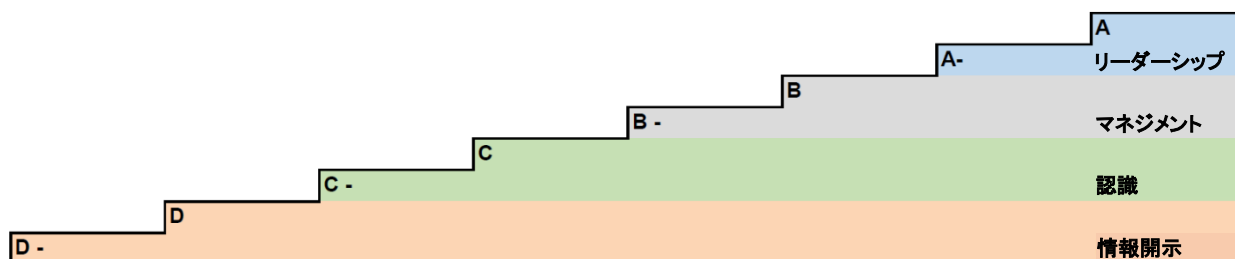
スコアリングの最終段階において、情報開示レベルと認識レベルで付与された得点の合計は、配点の合計で除され、100 をかけたパーセントの値に変換され、整数値に四捨五入したものが各レベルのスコアとなります。マネジメントレベルとリーダーシップレベルでは、スコアリングカテゴリーごとに獲得した得点の合計を各カテゴリーのウェイトによって重みづけして最終スコアを算出します。（「スコアリングカテゴリーとウェイト」の章を参照）

次のレベルで評価されるためには、一定のスコアおよび/または一定数の指標をクリアしていることが必要です。最低スコアの閾値が達成されない場合、回答企業は次のレベルのスコアを獲得できません。CDP は、企業の全体的な進捗状況を最もよく表すために、スコアリースの前にこれらの閾値を調整する権利を留保します。2021 年の閾値については現在検討中で、以下の表は近日中に更新します。

レベル	気候変動	水セキュリティ	フォレスト	スコア
情報開示	1-44%	1-44%	1-44%	D-
	45-79%	45-79%	45-79%	D
認識	1-44%	1-44%	1-44%	C-
	45-79%	45-79%	45-79%	C
マネジメント	1-44%	1-44%	1-44%	B-
	45-79%	45-79%	45-79%	B
リーダーシップ	1-79%	1-79%	1-79%	A-
	80-100%	80-100%	80-100%	A

最終スコアは A～D で表わされますが、これは獲得した最も高いレベルで得られた結果に基づきます。例えば、XYZ 社が情報開示レベルで 88%、認識レベルで 82%を達成し、マネジメントスコアカテゴリーの重み付けを適用した後、マネジメントレベルで 60%を獲得した場合、最終スコアは B となります。リーダー

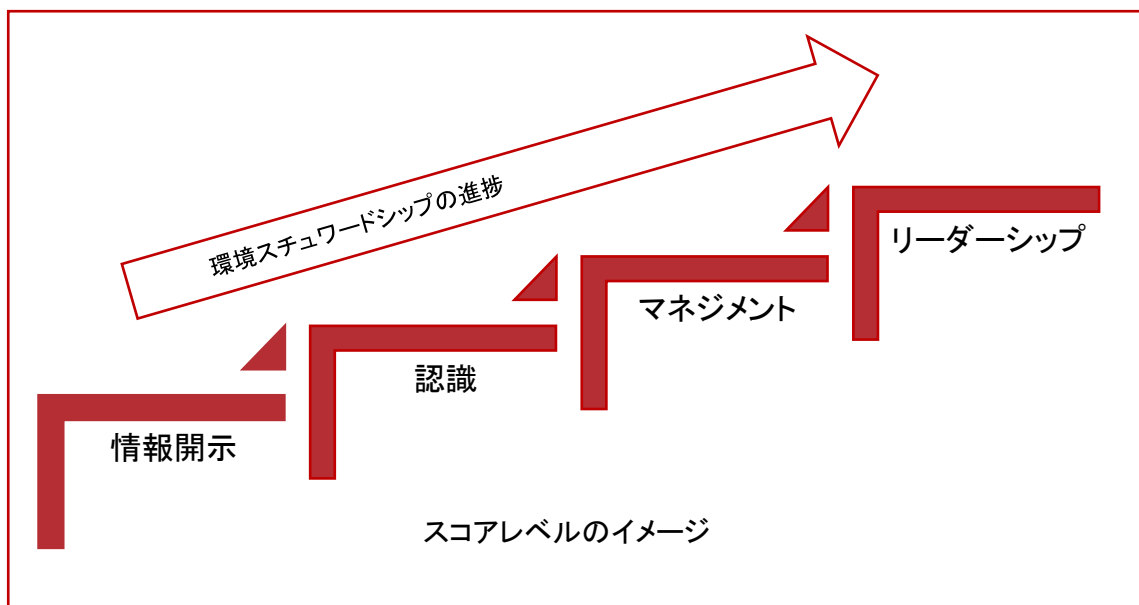
シップレベルを除き、45%未満のスコアを獲得している場合には、最終スコアにマイナスが付きます²。例えば、ABC社が情報開示レベルで81%、認識レベルで42%を達成した場合、最終スコアはC-となります。



結果は、環境スチュワードシップのどの段階に位置するのかを示す現在のレベルとともに、改善するためにはどのような活動を目指すべきかも含めて、回答企業に通知されます。

一つの質問に2つ以上のレベルのスコアリング基準が設定されている場合があります。各レベルのスコアリング基準は質問書全体に渡って設定されています。全ての質問において情報開示レベルのスコアリングが実施されますが、認識、マネジメント、リーダーシップレベルのスコアリングが実施されない質問もあります。

CDPスコアは、CDPへの回答に記載された活動や立場にのみ基づいて評価されているため、必然的に制限されていると言えます。したがって回答に記載されていない他の活動は考慮されず、そのような活動は環境的に良いものも悪いものもある可能性があることにご注意ください。



これらのレベルは、別表で示したA~Dのスコアで示されます。

F = 回答評価に十分な情報を提供していない³

² CDPは、企業の全体的な進捗状況を最もよく表すために、これらの閾値を調整する権利を留保します。

³ CDPへの回答要請を受けている全ての企業が回答している訳ではありません。回答要請を受けているものの、無回答であったり、十分な情報を提供していない場合、スコアはFとなります。ただし、Fの場合でも、環境スチュワードシップが不十分であることを示している訳ではありません。

スコアリング基準の文書の理解

スコアリング基準の文書をご覧くださいと、全般にわたって、“得点”(numerator)と“配点”(denominator)の欄が設定されています。“配点”欄は各質問で獲得可能な最大の点数を示しています。質問によっては、回答を記入することにより、スコアラーの判断は必要なく、自動的にその最大の点数が付与される場合があります。このような場合、その最大の点数が、“得点”欄に記載されています。それ以外の場合には、“得点”欄は空欄となっており、スコアラーが判断して点数を決定します。

特定の回答ルートの配点の合計が、一連の質問の下に太字で表示されています。多くの場合、表形式での回答が求められる場合のように、複数のデータセットを回答する質問では、最も高評価となるデータセットが得点として記録されます。しかし、質問によっては、最初の行に回答したデータセットの点数が得点として採用される場合もあれば、全てのデータセットの評価を反映した点数が得点として採用される場合もあります。どのようなアプローチを採用しているかは、各質問レベルのスコアリング基準に記載があります。

回答ルート

選択形式の質問において、どの選択肢を選択するかで後に続く質問が異なり、配点の合計は異なってきます。多くの場合、“Yes”を選択した企業の方が、“No”を選択した企業よりも、より高い配点になります。しかし、このように異なる質問のルートがスコアに影響しないよう、スコアは正規化されてパーセントの値で表示されます。最終スコアは、獲得した得点の合計を回答すべき全ての質問の配点の合計で除して計算します。従って、質問内容が自社に該当せず、より少ない質問数しか提示されない場合であっても、その企業は評価上不利になることはありません。

セクター別質問に対するスコアリング

ハイインパクトセクターに属する企業には、一般セクター質問に加えて、もしくは一般セクター質問の代わりに、セクター別質問が設定されています。各セクターに関連するデータポイントに対応する形で、スコアリングの採点基準も変わります。

気候変動質問書では 16 のセクターに、水セキュリティ質問書では 5 つのセクターにセクター別質問が設定されています。フォレスト質問書にはセクター別質問がありませんが、石炭セクターと金属・鉱業セクターには独自の質問が設定されています。フォレスト質問書の石炭／金属・鉱業質問に回答する場合、スコアリングの対象とはなりません。

2022 年、気候変動質問書内に、金融サービスセクター向け質問が新たに導入されました。この質問モジュールでは、気候変動関連の質問内容に対応する形の、水とフォレストに関連する質問が設定されています。水セキュリティや森林減少の課題に関連して重大な影響を受ける企業に投融资、保険業務を行っている金融サービスセクター企業がこの質問の対象となります。水関連質問、フォレスト関連質問に回答いただいた場合、2022 年はフォレスト関連質問のみがスコアリング対象となります。ただし、気候変動関連質問のスコアリングとは独立して実施され、気候変動関連質問のスコアには影響しません。またフォレスト関連質問のスコアは公開されず、回答企業にのみ通知されます。

スコアリングカテゴリとウェイト

2022 年のスコアリングカテゴリは、2022 質問書の各モジュールのサブグループであり、各プログラムそれぞれで異なりますが、一つのプログラムにおいては全てのセクターで共通です。各プログラムの各セ

クターはそれぞれ異なる形で環境問題の影響を受け、それを管理しています。この特徴を反映するため、各プログラムで、セクター別スコアリングカテゴリに異なるウェイトを設定しています。

ウェイトによる重みづけは、各スコアリングカテゴリのマネジメントレベルとリーダーシップレベルに適用されます。各カテゴリのウェイトは、最終スコアにおける相対的な重要性を反映しています。各セクター内のほとんどのスコアカテゴリは、マネジメントレベルとリーダーシップレベルの両方に対して同じウェイトとなっています。

スコアリングカテゴリごとのマネジメントレベルとリーダーシップレベルのウェイトを考慮した計算方法は次のとおりです。まず、カテゴリの得点の合計／カテゴリの配点の合計×100でパーセント表示のカテゴリの得点率を計算します。それに、ウェイト(%)を掛けた値がカテゴリスコアとなります。全てのカテゴリスコアを合計した値が、最終的な各レベルのスコアとなります。

スコアリングカテゴリのウェイト例

- ▼ “リスク開示”のカテゴリにおいて、マネジメントとリーダーシップレベルのウェイトはそれぞれ8%に設定されています。C2.3aで、マネジメントポイントを11点、リーダーシップポイントを1点、得点しているとします。

質問	カテゴリ	マネジメント 得点	マネジメント 配点	リーダーシップ 得点	リーダーシップ 配点	ウェイト	マネジメント スコア	リーダーシップ スコア	マネジメント最終 スコアのうち当該 カテゴリ分	リーダーシップ最終 スコアのうち当 該カテゴリ分
2.3a	リスク開示	11	15	1	3	8%	73.3%	33.3%	5.86	2.66

- ▼ マネジメントスコアは、マネジメントの得点／マネジメントの配点で算出されます。
($11/15 * 100 = 73.3\%$)
- ▼ このカテゴリスコアを算出するには、当該カテゴリのウェイト8%のうち何%獲得できているかを計算します。
 $73.3\% * 8\% = 5.86$
- ▼ 各レベルの最終的なスコアを算出するには、各カテゴリスコアを合計します。

ポイントの配分

ポイントを付与する方法は質問ごとに異なり、回答企業は回答を準備する際にスコアリング基準を詳しくチェックすることをお勧めします。いくつかの質問では、与えられた各データポイントにつき、その質問で得点可能な最大ポイントまで、ポイントまたはポイントの一部が累積的に与えられます。その他の質問では、ポイントが付与されるためには、要求された全てのデータポイントを提供する必要があります。後者の場合、回答欄を空白のままにしたり、必要なデータポイントを提供しなかったりすると、その質問の得点は0ポイントとなります。

表形式で複数の列の回答が求められるようなケースにおいては、いくつかのスコアリングの形式があります。すべての回答欄への記入がなされていないと得点とならない場合もありますが、最も高スコアとなる回答のみが得点に採用される場合もあります。また回答されたデータの数に比例して得点が与えられる場合もあります。この場合、回答行を追加して提供される情報量に比例してポイントを付与することによって、開示されたすべての行について完全な回答を行うことを促進します。スコアリングにおいては、当該質問の配点が、回答された行数で除され、追加された行ごとに回答された情報量に応じたポイントが付与されます。

スコアリング基準は有益なフィードバックを提供するように設計されており、回答企業は自社に最も関連し、自社の現在の状況を適切に反映し、入手可能な情報を回答しなければいけません。これにより、最終スコアが回答企業のパフォーマンスを反映し、コミットメントを進めるための有用なフィードバックを提供することができます。

他の質問との照合

スコアリング全体において、スコアリング基準は関連する他の質問のスコア／回答を参照することがあります。場合によっては、ある質問で点数を付与されていることが、別の質問の点数を獲得するための前提条件となります。また、ある質問で点数を付与されていることによって、別の質問の点数を獲得することができます。このように、他の質問を参照することは、企業の対応における一貫性を保証するためのスコアリングメカニズムです。どの質問と関連しているかは明確にされており、どのような閾値で評価されるかは各質問に固有の条件となっています。

外部サイトへのリンク、添付文書、"Further Information" (任意追加情報) 欄への記載、他の質問への回答の参照

スコアは、CDP のオンライン回答システム (ORS) に記載された内容に基づいて評価されます。特に明記されている場合を除き、回答欄に記載された情報のみが評価されます。

ORS には、“further information” (任意追加情報) 欄が設けられており、また回答には文書を添付することもできます。ここで提供された情報は、投資家や回答要請を行っている顧客企業・団体 (サプライチェーンメンバー) にも共有されますが、スコアリングには反映されません。ただし、質問で回答の根拠となる文書の添付を求めている場合には、該当する回答欄の正しい場所に該当文書を添付してください。もし文書がオンライン上でのみ入手できるものである場合には、その画面を PDF 形式で印刷したものを添付してください。どのようなファイル形式の文書を ORS に添付可能かは、回答ガイダンスを参照してください。

添付文書は、質問で特別に求められている場合のみ、内容を確認されます。(例: GHG 排出量の第三者検証／保証書類)

同様に、スコアリングは、その質問の回答欄に記載された情報のみに基づいて行われます。他の質問で提供された回答への参照は、スコアリング基準で指定されている場合を除き考慮されません。

無回答の質問

無回答の質問は、その質問または一連の質問の最大の配点に対して 0 点の得点となります。特定の重要なデータポイントの場合、無回答の質問には、その質問で可能な最大得点よりも大きい配点に対して 0 点の得点となる場合もあります。これらの重要なデータポイントはスコアリング基準で強調されています。表形式の質問において、表内の空白のセルは、質問に回答しない、またはデータを開示しないことを選択したと解釈されます。

質問内容に合致していない回答

回答が明らかに質問内容に沿っていない場合は、その質問に対してポイントは付与されません。これには、明らかに質問に答えていない回答、ドロップダウンメニューからの選択肢と矛盾した記述、表形式の質問で間違ったセルに回答を入力している、というようなケースがあります。

説明の記述

質問書に示された特定の質問に答えるだけでなく、理由や状況についての記述を回答する必要があります。「これは当社の事業には関係ありません」というような記述は、なぜどのようにそのトピックが自社に関連性がないのかが説明されていないため、説明とはみなされません。この場合の良い回答例は、次のとおりです。「鉱業会社として、地方自治体の取水は〇〇の事業所にのみ関連しています。これらの取水量は、当社の採掘事業における直接の取水と比較して最小限であり、重要とは見なされないため報告しません。」

重複する説明(例えば質問間でコピー・ペーストされている)は、特定の質問の文脈において意味が通り、スコアリング基準で要求された詳述内容と一致している場合には得点が与えられます。一般に、企業は各質問に合わせて説明文を調整し、不必要にポイントを失うことを避けるためにテキストをコピーするときには注意を払う必要があります。

自社固有の説明

スコアリング基準全体を通して、「自社固有の説明(company-specific explanation)」に対して得点が与えられています。自社固有の説明とは、自社の事業に特有の活動、プログラム、製品、サービス、方法論または事業所に関連する説明です。同業他社や同じ地域で操業している他の企業と区別できる、自社のみに当てはまる内容を記述してください。自社固有の説明は、当面の問題が回答企業自身のビジネスの文脈の中で徹底的に検討されており、単に一般的な観点から評価されているのではないことを回答閲覧者に理解させることができます。このような説明の例については、以下を参照してください。

不十分な回答例 - 0点	平均的な回答例 - 0点	良い回答例 - 1点
日本には、地震や台風、大雨などの自然災害による水害リスクにさらされている地域があります。これらのリスクは、バリューチェーン全体で取り組むべき経営課題であると認識しています。	特に日本国内の拠点では、地震や台風、豪雨などの自然災害による水害のリスクにさらされています。これらのリスクは、バリューチェーン全体での取り組みが必要な経営課題であると認識しています。洪水は、従業員や施設、在庫に被害を与え、物流(原材料の供給や完成品の出荷)が機能しなくなる可能性があります。	特に、全生産量の3割を占める日本国内の拠点は、地震や台風、大雨などの自然災害による浸水リスクにさらされています。これらのリスクは、バリューチェーン全体で取り組むべき経営課題であると認識しています。例えば、大雨による洪水で最大4週間生産が停止するなど、日本での事業の60%が中断するリスクにさらされています。

不十分な回答例 - 0点	平均的な回答例 - 0点	良い回答例 - 1点
サステナブルな製品の需要の増加は、当社にとって評判上の好影響がもたらされる可能性があります。	認証されたパーム油のみを使用した当社の食品など、持続可能な方法で管理された森林に由来する製品を提供することにより、当社は評判上の好影響がもたらされる可能性があります。当社は製品における持続可能性へのコミットメントを伝えるため、消費者とともにさまざまな情報プログラムに積極的に取り組んでいます。	当社ブランドが持続可能であると認識されるようにするために、消費者とさまざまな情報プログラムに積極的に取り組んできました。この取り組みの例としては、直接的なキャンペーン(2022年にはすでに当社製品の60%がパッケージに認証ラベルを貼付)や、サステナビリティプログラムとの関連付けが挙げられます。例えば、「Choose Green」プログラムでは、第三者認証製品のシェアを3年間で15%増加させることを約束しています。

気候変動質問書のスコアリング基準において、記述の際に求められる「自社固有」の度合いが異なる場合があります。「地域的、セクター別、または操業上の状況」(regional, sectoral or operational context)を示す回答が求められる質問があります。これは主に、プロセス、リスクや機会、戦略に関する質問です。「自社固有」の記述と同様に、質問の文脈に沿い、自社に関連した具体的な情報が記載されなければなりません。

州や国レベル、もしくはそれ以下の地理的領域を指す場合、その回答は地域に特化した(regionally specific)記述であると言えます。ただし、カーボン・プライシング施策(例:EU ETS)などのように、国レベルを超えたより広範な地域で導入されている場合は、これも該当します。セクターに特化した(sector specific)記述とは、その企業が属するセクターに関連し、そのセクターに属するすべての企業に同様の影響が及ぼされるような情報を指します。操業に特化した(operationally specific)記述とは、回答企業の操業に関連した影響、リスク、戦略を指します。

気候変動をテーマにこれらの記述例を下記に示します。

地域に特化した記述例

不十分な回答例 - 0 点	良い回答例 - 1 点
気候変動に起因してより頻繁にハリケーンが発生するようになり、米国東部における当社の店舗の洪水リスクが高まっています。	ニューヨークにある当社の旗艦店において、ハリケーンによる重大なリスクが高まっています。気候が温暖化し、ハリケーンの頻度や規模が大きくなると、その結果、当社の店舗は深刻な被害や混乱に直面する可能性が高くなります。

セクターに特化した記述例

不十分な回答例 - 0 点	良い回答例 - 1 点
製糖工場は 2 工場とも生産量が減少しました。サトウキビの破砕量が減少したため、パルプの発生量も減少し、高いコストでパルプを外部から購入しなければならなくなりました。	当該シーズンのインドの砂糖生産は、市場全体で、前シーズンの 40 百万トンに対し、35 百万トンに減少しました。当社の 2 つの製糖工場では、生産量が 22~32%減少しました。これは、2019/20 年の砂糖生産量が 43,000 トン減少したことになります。サトウキビの破砕量が減少したため、パルプの発生量も減少し、パルプを高いコストで外部から購入する必要がありました。

操業に特化した記述例

不十分な回答例 - 0 点	良い回答例 - 1 点
2020 年の山火事シーズンには、クイーンズランド州の主要生産工場では、山火事に対する軽減策を導入していたにもかかわらず、深刻な被害を受けました。	2020 年の山火事シーズンには、クイーンズランド州の主要生産工場では、山火事に対する軽減策を導入していたにもかかわらず、深刻な被害を受けました。2 基の主要な蒸留器が修復不可能な損傷を受け、さらに 2 基が大規模な修理と保守作業を必要としたため、5 ヶ月間使用できませんでした。さらに、工場内の換気システムが損傷したため、従業員は修理が終わるまで仕事に戻ることができず、その期間は 2 カ月以上にも及びました。金銭的なコストだけでなく、バリューチェーン全体に深刻な物流上の影響を及ぼしました。

ケーススタディ

いくつかの質問においては、回答を裏付けるための具体的なケーススタディを提供することでポイントが与えられます。ケーススタディとは、特定の状況や課題に対する過程、戦略、または意思決定の実施についての詳細な説明と定義されます。ケーススタディによって、以前に記述したプロセス、戦略、または意思決定が、質問書回答者の行動に反映されていることをデータ利用者に伝えることが可能です。

ケーススタディを記述する際には、以下に挙げる「Situation-Task-Action-Response (STAR)」アプローチに沿った記載を含める必要があります。

- 1) 状況 (Situation): 現状や背景はどのようなものか
- 2) 課題 (Task): 何をしなければならないのか／解決すべき課題は何か
- 3) 行動 (Action): 実施した一連の行動はどのようなものか
- 4) 結果 (Result): 行動した結果、最終的にどのような成果が得られたか

上記の STAR アプローチは、スコアリングの上で必ず要求するといったものではなく、企業が回答を作成する際の指針となるものであることをご留意ください。

気候変動質問書のスコアリング基準においては、ケーススタディの基準はより具体的に「実施したアクションについて、時間軸を伴った導入状況とその結果を説明すること」が求められています。

明確な根拠

いくつかの質問書内の設問では、「明確な根拠」を提供するとポイントが付与される場合があります。これは、回答企業によって実施された方法論、説明、決定および行動に対する論理的な根拠を提供する説明として定義されています。

無回答と回答遅延

CDP から回答要請を受けている全ての企業が回答を提出している訳ではありません。回答要請を受けているものの、無回答であったり、十分な情報を提供していない場合、スコアは F (failure to provide sufficient information to be evaluated) となります。締切を過ぎて回答した場合には、“not scored” と表示されます。

情報開示レベルのスコアリング

質問書の全質問は、情報開示の度合いを評価されます。一般に、各質問に割り当てられる点数は、要求されたデータ量とデータ利用者にとっての相対的な重要性の両方に依存します。データポイントは、情報開示レベルの1ポイントとほぼ同等ですが、情報の重要性が特に高い場合、1つの情報に複数のポイントが割り当てられます。記述式の回答の場合、要求されているデータポイントがいくつ提供されているかに応じてスコアリングされます。要求されているデータポイントは全て、2022 スコアリング基準で設定されています。

認識レベルのスコアリング

認識スコアは、環境問題が事業とどのように関連するかについての企業の評価の包括性を示しています。企業の評価には、事業活動が環境に与える影響、これらの活動が人や生態系に与える影響、環境が事業活動に与える影響が含まれます。これは、特定の企業が直面するビジネスリスクの大きさに影響します。

認識スコアは、企業が初歩的なスクリーニングや評価を超えて環境問題に対処するための行動を取ったことを示すものではありません。問題に対処するための行動は、次のレベル— マネジメントレベルのスコアリングで表わされます。

マネジメントレベルに進むには、回答企業は環境問題を幅広く評価し、どのように自社の事業に関連するかの基本的なレベルの認識があることを示すために、回答企業は得点可能な認識ポイントのうち、閾値を超えるスコアを獲得している必要があります。閾値は暫定的に設定されており、回答の分布が回答の母集団全体の現在の進捗レベルを表していることを確認し、スコアリング期間中に見直される場合があります。

マネジメントレベルのスコアリング

マネジメントポイントは、良好な環境管理に関連する行動の根拠を提供する回答に対して付与されます。より進んだ環境ステewardshipを示す回答にはより高いポイントが与えられます。マネジメントレベルでスコアカテゴリごとに算定されたポイントは、スコアカテゴリのウェイトに従って、最終的なマネジメントスコアを計算するために使用されます。

自社の事業が環境にどのように影響を与え、環境が自社の事業にどのように影響を与えるかを評価した後、企業は悪影響を減らすために取るべき行動を決定できます。リスクを低減し、影響の大きいサイトでの環境指標の測定を進め、リスク評価をより強固かつ包括的にし、環境方針を実施し、そして環境問題を事業戦略に統合するための努力をすることができます。マネジメントスコアは、これらすべての分野での行動を評価します。環境問題は特定の企業の事業運営に特有のものであるだけでなく、状況に特有のものである可能性があるため、特にフォレストや水セキュリティプログラムにおいて、特定の一連の行動をすべての企業にとって普遍的に正しいと推奨することはほとんど不可能と言えます。したがって、マネジメントレベルのスコアリングでは、行われた特定の行動の適切性または有効性を判断することよりも、企業によるプロセスおよび手順の開示に依存しています。気候変動は、地球規模で固有な環境問題であり、GHG 排出量の削減という形ですべての企業に関連性があり、どの企業にも同様に適用可能な緩和行動が必要

です。したがって、気候変動プログラムのマネジメントレベルのスコアリングでは、管理活動として上記のような活動に対して高評価を行っています。

リーダーシップレベルのスコアリング

リーダーシップレベルを獲得するためには、企業はスコアリング基準に記載されているリーダーシップポイントを獲得しなければなりません。これらの行動は、環境ステewardシップを推進するために CDP が協働している機関(例:CEO ウォーターマンドेट、CERES、WWF)によって策定されたベストプラクティスを表しており、多くのケースは、既に環境方針や環境活動において主導的な企業によって報告されている内容です。リーダーシップレベルでスコアカテゴリーごとに算定されたポイントは、スコアカテゴリーのウェイトに従って、最終的なリーダーシップスコアを計算するために使用されます。

気候変動プログラムでリーダーシップレベルを達成した企業は、他のすべてのレベルで高い得点を示しており、リーダー企業として認められる具体的な行動を開示しています。これら企業の回答は、気候変動に関連するリスクと機会についての完全な理解を示し、そしてこれらのリスクを低減し機会を最大化するための戦略を策定し実行しています。そして、GHG 排出量を検証し、全社的な目標を達成するために排出量削減戦略を導入しています。

水セキュリティプログラムでリーダーシップレベルを達成した企業は、他のすべてのレベルで高い得点を示しており、リーダー企業として認められる具体的な行動を開示しています。このような企業は水関連リスクを評価するしっかりとした手順を導入し、そのリスク影響を事業の成長戦略において評価しています。水管理が事業戦略に組み込まれており、明確な全社的な定量的な目標、定性的なゴールを設定しています。これらの企業は情報開示において、自社にとって重要な範囲を報告除外対象に含めていません。

フォレストプログラムでリーダーシップレベルを達成した企業は、他のすべてのレベルで高い得点を示しており、リーダー企業として認められる具体的な行動を開示しています。このような企業は全ての関連する事業所、サプライチェーン、コモディティについて回答しており、重要な範囲を報告除外対象に含めていません。また包括的で完全なリスク評価を行っており、コミットメント達成に向けた活動を行っています。

A リスト

気候変動や水問題、森林減少によるリスクを緩和するために、積極的かつ有効な活動を行っている企業を認めるために、CDP は、高いリーダーシップスコアを獲得した企業を、各プログラムの A リスト企業として認定しています。企業が A リストとして認定されるには、回答にいくつかの要件があり、回答提出後に CDP によって実施されるいくつかのチェックに合格する必要があります。質問の要件については以下の表をご覧ください。

各プログラムの A リスト認定に必要な基準を満たすためには、企業は回答に含めなければいけない要件(青色)と、合格しなければならない要件(赤色)があります。これらの A リスト要件を満たすための具体的な内容については、「気候変動」、「水セキュリティ」、「フォレスト」の各スコアリング基準の「リーダーシップと A リスト基準」の項に、プログラムごとの詳しいガイダンスが掲載されています。

	気候変動	水セキュリティ	フォレスト
重要な範囲を報告除外対象に含めていない (C6.4, C6.4a, F0.6a, F0.7a, W0.6)	✓	✓	✓
スコープ 1, 2 排出量のそれぞれと、スコープ 3 排出量の最低一つのカテゴリーについて 70% 以上の第三者検証を受けている (C10.1a, C10.1b, C10.1c が対象。スコープ間の合算ではなく、それぞれの検証で上記の基準を満たしている必要がある。)	✓		
最低限のリーダーシップポイントを獲得している (各プログラムにより異なる)	✓	✓	✓
投資家要請質問書について回答を一般公開している	✓	✓	✓
すべての事業およびサプライチェーンにおいて、包括的かつ徹底的なリスク評価が実施されていることを示す (F2.1a)			✓
森林減少と森林劣化に関するコミットメントに対する行動をとっている (F4.5, F4.5a, F4.6, F4.6b, F6.1, F6.2, F6.2a, F6.3, F6.4, F6.8, F6.10/F6.11)			✓
CDP スコアリングチームによるリーダーシップ関連質問のマニュアルチェック	✓	✓	✓
評判リスクに関するチェック	✓	✓	✓
CDP スコアリング運営委員会の承認	✓	✓	✓

リーダーシップ回答のレビュー

A リスト企業は CDP のレポートや報告会等のイベントにおいて世界的に認められるというベネフィットがあります。この認定を保証するために、A リスト企業決定の際には、正式なしっかりしたプロセスをとります。スコアリングパートナーから CDP にスコアが提出されると、A リストレビューのプロセスが開始されます。A リストに認定されるためには、以下の 3 つのステップをクリアすることが必要です。1 つでもクリアできない要件があった場合には、スコアは A- となります。A- の企業は、良いパフォーマンスを行っていますが、A リスト要件の全てを満たしていないため A リストには含まれません。

3 つのステップは以下のとおりです。

1. CDP スコアリングチームによる回答の再確認
2. 評判リスクのチェック
3. CDP スコアリング運営委員会の承認

1. 回答の再確認

CDP はリーダーシップレベル (A または A-) にある全ての企業の回答とスコア結果をレビューし、リーダーシップと判断するために、回答内容が十分に詳述され、十分に高い質のものであるかを確認します。

再確認するポイントは以下のとおりです。

- 1) 回答が全般的に明確であり、曖昧な意味合いのものが無い
- 2) 関連する情報を網羅し、求められている内容を回答している

3) 各質問に対して明確に適切なレベルの詳述を行っており、データ利用者にとって有益な情報を提供している

回答に重要な情報が欠けている場合にはリーダーシップから除外されます。企業は、報告された除外項目がその環境影響に基づいて重要でないかどうかを示す情報を提供する必要があります。その例としては、全世界的に事業を行っている企業が1カ国の事業に基づいた回答しか行っていない場合や、大きな環境影響があり、事業にとって重要であると考えられる事業分野の情報を開示していない場合などです。直近の合併や買収など、適切なビジネス上の理由により、回答できない情報がある場合には、問題とはみなされません。

2. 評判リスクのチェック

回答とスコアのチェック後でも A リストに選定される可能性のあるすべての企業に対して、CDP の回答に含まれていない、またはパブリックドメインで利用可能な情報から、サステナビリティに疑念を生じるような企業が A リストに含まれていないかどうかを確認します。ここでは下記の 2 つのプロセスを実施します。

まず、データプロバイダである RepRisk から提供される、報告年における CDP のプログラムに関連する社会的・環境的トピックのデータに基づき、レビューを行います。RepRisk は、批判を捉え、企業およびプロジェクトの ESG リスクに対するエクスポージャーを定量化する定量的手法を提供しています。RepRisk は 28 の ESG 問題と 36 のトピックタグにおいて、15 の言語で 80,000 以上のソースのデータをスクリーニングします。CDP は、CDP に関連するか、または潜在的な可視性が高いタグと問題に従って、RepRisk データベースですべての A リスト候補企業をレビューします。

RepRisk のレビュー結果を、各国の CDP オフィスの評判リスクのチェックで補完します。A リスト候補企業のリストを世界中の CDP オフィスにいるアカウントマネージャーに送り、A リスト候補企業に関する各国の評判リスクを反映することができるようにします。各国オフィスのアカウントマネージャーは、スコアリングチームと共に、地元のメディアや地元のステークホルダーの間で取り上げられた潜在的な評判の問題を特定し、A リストや CDP の信頼性を損なう可能性があるかと判断する場合には当該企業を A リストから外すことを提案します。

3. スコアリング運営委員会

評判リスクチェックの最終段階として、スコアリングチームは上記のプロセスの結果をもとに、A リストに該当する最終候補企業リストを運営委員会に報告します。スコアリング運営委員会が、A リスト企業の最終決定を行います。

A リストから漏れた企業は、個別に通知されます。この決定は外部に公開されることはありません。

回答の公表

A リストに選定されるためには、CDP オンライン回答システムから回答を提出し、一般公表する必要があります。

第三者検証

気候変動プログラムにおいて、企業が A リストに選定されるためには、CDP が認定した検証基準のもとでスコップ 1、2、3 排出量のそれぞれについて最低 70% の第三者検証を受けている必要があります。認定された検証基準の一覧は、CDP ウェブサイトからご覧いただけます。<https://www.cdp.net/en-US/Respond/Pages/verification-standards.aspx> このリストに含まれていない基準に関しては、verification@cdp.net まで、基準名と、可能であれば関連するウェブサイトのリンクやコンタクト先をご連絡ください。

免責事項

CDP スコアは、CDP 回答に記載されている活動と内容に基づいています。そのため、CDP の回答に記載されていない行動は考慮されず、データ利用者はこれらが環境管理の観点からプラスまたはマイナスである可能性があることに留意するよう求められます。このスコアは、企業の持続可能性や「グリーン」のレベルを包括的に示すものではなく、環境フットプリントに関する特定の指標ではありません。しかし、報告年度中の環境関連の問題による影響を評価し管理するために企業が行っている行動のレベルを示す一つの指標となります。

CDP2022 スコアリング基準は現在も発展段階にあります。スコアリング基準は一般に公開され、回答企業がどのように得点を与えられるのかを示しています。最新のリスク管理戦略やベストプラクティス、回答データの質、スコア結果に基づき、CDP はスコアリング期間前や期間中を通して、基準や質問のウェイトを変更する権利を留保します。

簡易質問書のスコアリング

投資家からのみ回答要請を受けて簡易質問書に回答した企業はスコアリングを実施されません。

顧客企業からのみ回答要請を受けて簡易質問書に回答した企業で、年間売上が2億5000万ユーロ/米ドル以下の場合、簡易質問書向けのスコアリング基準に基づいてスコアリングされます。ただし完全版の質問書に回答した企業との比較ができないため、Aリストには選定されません。

投資家と顧客企業の両方から回答要請があり簡易質問書に回答した企業で、年間売上が2億5000万ユーロ/米ドル以下の場合、スコアは回答企業と回答要請を行った顧客企業にのみ開示され、一般には公表されません。

スコアリング基準に関するフィードバックとお問合せ先

スコアのフィードバックを受けたい場合

scorefeedback@cdp.net (英語)、japan@cdp.net (日本語)

スコアリング基準に関する質問やご提案がある場合

respond@cdp.net (英語)、japan@cdp.net (日本語)

回答プロセスにおける特別なサポートをご希望の場合

reporterservices@cdp.net (英語)、reporterservices.japan@cdp.net (日本語)

付録 I - 利益相反に関するポリシー

回答スコアリングにおける利益相反に関するポリシー

2016年8月改訂

高品質の情報を提供する、独立した公平なプロバイダーとしてのCDPの評判を維持することが最も重要です。したがって、CDPは、本ポリシーを採用し、質問書に回答した企業に対して当機関が与えるスコアの正確性に影響を及ぼす可能性がある利益相反のリスクを最小限に抑えます。

スコアリング基準の作成

1. CDPスコアリングチームは、CDPの使命を推進し、環境問題に関する科学的知識を考慮に入れ、回答企業を公平に扱うような方法でCDPスコアリング基準を作成する責任があります。スコアリングチームはこれらの要素のバランスを取り、それらについて独立した決定を下さなければならず、利益相反の可能性を最小限に抑えるために、チームメンバーの誰もが企業との継続的な関係に責任を負いません。

スコアリングプロセス

2. CDPスコアリングチームは、スコアリングプロセスの実施、スコアリングパートナーのトレーニング（下記の第4項で定義）、および発表前のスコアの検証を監督します。スコアリングチームは他のCDPスタッフに協力を要請することができます（例えば、特定の基準を満たすかどうかをチェックするために添付ファイルを翻訳するなど）。しかし、そのようなスタッフは未発表の回答またはスコアへのアクセスを許可されておらず、全てのスタッフは常に下記の第7項の禁止の対象となります。
3. 回答企業から提出された回答は、企業によって、またはCDPスタッフの指導によってのみ修正が可能です。
4. CDPに代わってスコアリングを行う機関（スコアリングパートナー）は、CDPによって認められ、CDPのトレーニングプログラムを完了し、CDPスコアリング基準を一貫して適用させるための内部のクオリティアシュアランスプロセスを実施し、スコア公開前の最終チェックのためにCDPにスコアを提出しなければいけません。
5. スコアリングパートナーは、回答企業が自社の創業者、クライアント、競合他社に関係なく、全ての回答企業を平等に扱わなければいけません。従って、
 - a. スコアリング開始前に、スコアリングパートナーはCDPに、クライアントや創業者、競合他社が回答企業のサンプルに含まれているか、また回答準備やレスポンスチェックサービスを提供した企業が含まれているかをCDPに知らせなければいけません。
 - b. スコアリングパートナーが回答企業の回答準備やレスポンスチェックサービスを提供していた場合、他のスコアリングパートナーがスコアリングを行います。
 - c. 客観性に影響を与える可能性があるその他の分野でスコアリングパートナーが回答企業と協力している場合、CDPはそのような回答の全てまたは一部のチェックを行います。
 - d. スコアリングパートナーの公平性に懸念がある場合、CDPはそのようなスコアリングパートナーのスコアに追加のチェックを適用するか、影響を受ける企業が別のスコアリングパートナーによってスコアリングされるように調整します。

- e. スコアリングパートナーがスコアリングのアプローチを平等に適用していないことをCDPが発見した場合、CDPは直ちにそのスコアリングパートナーとの関係を解除し、影響を受けたスコアを確認および修正します。

スコアに影響を与える資金提供と行為の制限

- 6. CDPもスコアリングパートナーも、スコアの決定に影響を与えることが目的の資金提供は受け付けません。これは、助成金、スポンサーシップ、サービスの販売、またはその他の収入にも同様に当てはまります。
- 7. 回答を修正したり、スコアリング基準やスコア結果に影響を与えたり、あるいは第三者が個人的な利益を得るために支援したりするCDPスタッフやトラスティメンバーの行為は、重大な違法行為とみなされます。